

オレゴン州：小麦作柄と気象状況

2005年6月7日

2005年6月5日現在の概況：

6月5日に終わる週の気象は、地区により異なり、Willamette 盆地に於いては、気温は平年を多少上回り、最高気温は70度F前半、最低気温は42～49度Fであった。平均気温で1～3度F平年を上回った。一方、乾燥地帯のNC地区では最高気温は70度の後半まで上昇したが、最低気温は31～34度Fであり、平均気温で7～9度F平年を下回った。降雨は各地区に見られたが降雨水量は少なかった。1週間の降水量はWillamette 盆地では0.45～1.42 (Aurora) インチ、NC地区では0.22～0.35インチであった。1週間の州平均農作業稼働日数は6.4日(前週：6.6日)であった。土壌水分は前週より多少落ちた。

冬小麦は91%が出穂した。昨年(82%)並びに5年平均(70%)より1週間以上早い進展である。温度の上昇により出穂が早まった。尚、降雨の為小麦の黄さび病(Rust)が一部の圃場に発生した。Morrow 郡では低目の気温と降水が冬小麦の作柄を改善した。単位収量は35～40bu/acと予想された。Sherman 郡では5月の降雨で作柄が良くなった小麦が、2週に亘り降雨が殆ど無く更に温度が上昇した為、小麦に水分不足のストレスが現れた。特に春小麦にそれが顕著となった。Wasco 郡の冬小麦は強風で土壌が乾燥し、冬小麦は温度の上昇と共に急速に出穂した。Umatilla 郡の小麦は土壌水分が良く、良好と報告された。冬小麦並びに春小麦の全体の作柄は、前週より評価が落ちた。特に春小麦の作柄は目立って劣化した。

USDAの5月1日付け冬小麦の生産予想では、単位収量は昨年実績の61.0Bu/acrより悪く55.0bushels/acrであった。5月までの降水不足が予想を悪くしたと言える。詳細は別表の通り。

土壌水分：6月5日現在

	Very short	Short	Adequate	Surplus
Topsoil (%)	9	13	71	7
Subsoil (%)	16	27	55	2

小麦生育状況：6月5日現在

	This Week	Last Week	Last Year	5-Year Ave.
Spring wheat Emerged (%)	97	93	95	90
Winter wheat Headed (%)	91	76	82	70

小麦の作柄状況：6月5日現在

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent

Winter Wheat					
This week (%)	1	14	34	43	8
Last week (%)	1	9	33	46	11
Spring Wheat					
This Week (%)	10	21	31	33	5
Last Week (%)	0	12	38	45	5

Source: Oregon Agricultural Statistics Services

5月1日付けUSDA発表冬小麦の生産量予想：

State	Harvested Area 1,000 Acres		Yield Bushels/acre		Production 1,000 bushels		
	2004	2005	2004	2005	2003	2004	2005
Crop							
OR	780	840	61.0	55.0	47,940	47,580	46,200
USA	34,462	35,069	43.5	45.4	1,716,721	1,499,434	1,590,862

この作柄・気象レポートに関してのご質問は下記にお願い致します。

小川正晃：<mailto:ogawa.max@omicnet.com>